

評議会だより

第四七九回評議会

平成七年六月二十日(火)

☆(教員選考報告)
アイソトープ総合センター

助教授 中島 覚

総合科学部

助教授 浴野 稔一(基礎科学研究)

理学部

講師 青木百合子(高分子化学)

歯学部

助教授 杉山 勝(口腔外科学第二)

工学部

教授 鈴木 修(発酵工学)

助教授 石塚 悟(原動機工学)

生物生産学部

教授 川上 英之(衛生微生物学)

(報告)

一、統合移転完了記念事業について

実行委員会において大筋で承認された招待者リスト、案内状等について報告があり、戸田小委員会委員長の教養的教育検討委員会特別委員会特別委員長就任による辞任の申し出を承認し、後任として、辻実行委員会委員を選出した旨、報告があった。

二、工学部とインドネシア共和国スラバヤ工科大学との間の学術・教育交流に関する協定の締結について報告があった。

(議事)

一、平成七年度当初予算配分について
教員当積算校費及び学生当積算校費の

本年度単価アップ相当額は、共通経費不足額に充当し、残額については事業計画へ配分することとし、その他については、原案のとおり承認した。
二、平成八年度新規概算要求事項について
原案のとおり承認した。

第四八〇回評議会

平成七年七月十八日(火)

☆(本部新任者の紹介)

庶務部国際交流課長 福 忠弘
(前 長岡工業高等専門学校庶務課長)

☆(教員選考報告)

総合科学部

助教授 陳 旭彦(基礎科学研究)

学校教育学部附属障害児教育実践センター

教授 高杉 弘之(重度・重複障害教育)

医学部附属病院

助教授 八幡 浩(手術部)

(報告)

一、広島大学の理念について

学長から、大学全体の理念を部局長連絡会議で、教養的教育の理念を教養的教育検討委員会で各々原案を作成し、評議会に諮りたい旨報告があった。

二、広島大学各キャンパスの呼称について

今後、本学各キャンパスの呼称を統一して使用する旨報告があった。

(議事)

広島大学名誉博士称号授与規程の改正について

原案のとおり承認し、七月十八日付けで制定、施行することとした。

被爆死した 故ニツク・ユソフ氏の墓前供養



五日市 光禪寺で

日本政府は昭和十八、十九年 占領下の南方諸地域から、将来の指導者を養成すべく国費で留学生を招請した。留学生は軍と大東亜省が選抜し、現地日本語予備教育し、来日後は半年間東京で再教育し、ついで各地の大学へ留学した。

これが南方特別留学生で、広島文理科大学教育学科へ来日、十八年には五名が、十九年には四名がそれぞれ留学し、被爆した。ユソフ氏は西方へ逃れるうち、多分翌日死亡した。身よりのない小骨壺を引き取り、苦心してイスラム式墓を建立したのは光禪寺先代星月住職である。当初はお寺と市民有志が、今は広島大学原爆慰霊行事の一環として市民有志とともに墓前供養している。

五十周年の本年、南方特別留学生の同窓親睦会へ出席した六名、市民有志九名、マレーシア留学生八名、学長その他広島大学関係者の参会、その他の方の弔意があった。
(市民有志の世話人 菅野義信)

広島大学原爆死没者 追悼式開かれる

広島に原爆が投下されて五十年目、広島大学原爆死没者追悼の碑が建立されて二十一年目を迎える今年も、八月六日、広島大学旧大学会館中庭の「追悼之碑」の前で、原爆死没者追悼式が行われた。

追悼式には、遺族及び同窓会代表並びに学長をはじめ部局長等学内外の関係者約百名が参列し、千二百五十二名の霊前において、死没者名簿の奉納、黙とう、学長の武辞、献花及び献水がおこなわれ、執行行われた。今年も、広島大学原爆死没者調査委員会の調査の結果、二十八名の死没者が判明し、「追悼之碑」に合祀した。

式典に引き続いて、旧理学部そばの「広島文理科大学・広島高等師範学校 原爆死没者遺骨埋葬の地」の石碑に関係者が参列して、献花及び献水を行った。

なお、学長は式典終了後、「遺骨埋葬の地」の石碑を同地域売却処分のため「追悼之碑」のそばに移設し、来年からともにお祀りをする旨関係者に報告した。



死没者名簿を奉納する原田学長と遺族代表